

令和7年度厚生労働省 老人保健健康増進等事業「認知症施策推進のための市町村支援等の環境整備に関する調査研究事業」

「本人の声を起点とする認知症施策推進に向けた都道府県による 市区町村の個別支援のモデル事業」の実施報告について

令和7年度老人保健健康増進等事業「認知症施策推進のための市町村支援等の環境整備に関する調査研究事業」として実施された「本人の声を起点とする認知症施策推進に向けた都道府県による市区町村の個別支援のモデル事業」に、千葉県として応募し、事業を実施しましたので、報告します。

1 モデル事業の概要

事業の受託事業者である「一般社団法人人とまちづくり研究所」からスーパーバイザーの派遣を受け、県と市町村が、認知症施策における課題の解決に向けた連携を実施するものであり、スーパーバイザーのサポートの下、認知症施策の推進に関する現状と課題の洗い出しや、市町村への伴走支援の企画・設計のノウハウを学び、今後の市町村支援に活かす。

併せて、市町村による「本人の声を起点とする認知症施策の推進」の支援を担うアドバイザーを千葉県内から発掘するためのサポートを受ける。

2 事業の実施

(1) 課題の棚卸し

市町村が何に困難を感じているのか、県としてどのように伴走支援を行っていくのかをスーパーバイザーと共に洗い出しを行う。

→ 洗い出された千葉県の課題

- 県として、普及啓発・研修等の実施による市町村支援は行っているものの、伴走支援等、市町村の課題に沿った直接的な支援が実施できていない。
- 市町村の事業の実施状況等については、例年、県・国それぞれ行っているアンケートにより把握しているが、詳しい内情まで求めているものではないため、市町村の困り事を把握できていない。

(2) アドバイザーの発掘

今後、都道府県とともに市区町村の支援を行うアドバイザーを、自県から発掘するサポートをいただく。

→ ちばオレンジ大使 布川 佐登美氏 に依頼。

- スーパーバイザーから、今回のモデル事業では、「本人の声を起点にすることが重要であり、市町村支援のアドバイザーを発掘することが目的の1つであるが、「オレンジ大使の方にアドバイザーをお願いするのも1つの方法」である旨、助言をいただいたことから、今回は布川氏に依頼した。
- 今後は、事業を展開していくことを見据え、布川氏と一緒に活動できるサポーターの発掘も行っていきたい。

(3) 個別支援の実施

市区町村の支援を都道府県担当者、アドバイザー、スーパーバイザーとともに実施する。

→ 伴走支援市町村については、人口規模等を踏まえて2市町村を選定。

○ 八千代市（人口約20万5千人）

- ・ 市区町村を対象とするモデル事業に申込みを行っていたことから、県と八千代市のコラボレーションで事業を実施することとした。

○ 匝瑳市（人口約3万2千人）

- ・ 人口規模が小さい市町村に対してモデル事業実施希望照会を実施したところ、応募があったもの。

3 活動内容（打合せについては網掛け）

10月21日	各市町村の現状・課題感の把握
10月24日	布川氏、スーパーバイザー顔合わせ
11月26日	匝瑳市「オレンジの会（チームオレンジ）」見学
12月10日	八千代市「八千代市」認知症カフェ見学
12月22日	匝瑳市「多職種協働研修」について打ち合わせ
12月25日	八千代市「本人ミーティング初開催」に向けた打ち合わせ
1月6日	匝瑳市「多職種協働研修（2回目）」について打ち合わせ
1月14日	匝瑳市「多職種協働研修」について打ち合わせ（3回目）
1月30日	八千代市「本人ミーティング」開催
2月中旬	匝瑳市「オレンジの会アンケート」実施
2月12日	匝瑳市「多職種協働研修」開催
2月24日	モデル事業学び合いの場活動報告会発表 (モデル事業参加都道府県、市町村)
3月3日	匝瑳市「チームオレンジ活動報告会（千葉県主催）」について 打ち合わせ
3月3日	八千代市 本人ミーティング及びモデル事業振り返り
3月9日	「チームオレンジ活動報告会（千葉県主催）」開催 (匝瑳市発表)
3月23日	モデル事業活動報告会発表予定（全国）

4 実施結果

(1) 八千代市

認知症カフェの見学から、「新しい認知症観」の普及啓発が、一部不十分であることが分かった。

原因としては、当事者とのつながりが弱いことや、地域包括支援センターで実施している相談業務では、当事者の問題解決を優先としているため、当事者の想いや希望を聞き取る余裕がないこと等が挙げられた。

アドバイザーである布川氏から、「本人が本音を語れる場」が必要不可欠であると、助言をいただいたことから、千葉県の事業である家族交流会と抱き合わせで、初めての「八千代市本人ミーティング」の開催を計画した。

本人ミーティングには八千代市から認知症当事者1名が参加され、本人のやりたいこと、やりたいことが実現できていない理由、次回もミーティングに参加したいと思えた等の「本人の声」の聴き取りをすることができた。

(2) 匝瑳市

チームオレンジの活動を見学したところ、アドバイザーの布川氏から「楽しい場ではあるものの、本人の本音が聞き出せる場になっていない」「ボランティアの意識改革の必要性（やってあげたいという意識が強く、本人と対等な主体として関わる意識が不十分である）」といった指摘をいただいた。

また、市の担当から、多職種の方々にも「新しい認知症観」について普及啓発を行うとともに、本人の言葉で語ってほしい旨意見があったことから、匝瑳市主催の多職種協働研修に布川氏の登壇が決定した。

さらに、スーパーバイザーから、オレンジの会のメンバーの認知症観の変化を調べるということが提案されたことから、アンケートを実施し、これまでの活動を評価した。

匝瑳市の取組みについては、各モデル事業報告会にて発表をしている。

- ・ 2月24日 モデル事業参加都道府県、市町村による「モデル事業学び合いの場活動報告会」において発表
- ・ 3月23日 全国の自治体を対象とする「モデル事業活動報告会」において発表予定

5 モデル事業の成果と今後の展開

今回、八千代市と匝瑳市での活動では、両市がそれぞれの形で、本人の声を聞き取る体制を整えることができたと考えている。

また、事業を実施する中で、新たに県の課題が洗い出されたほか、開催したい会議・研修等、市の担当としての意見、アドバイスをいただいた。

これらの成果については、今後、計画の策定に向けた当事者の意見を聴く手法や、アドバイザーによる伴走支援の更なる展開、より効果的なちばオレンジ大使による発信活動の方法などの検討に活かしてまいりたい。